



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	本邦産地膽科 (MELOIDÆ) の研究
Author(s)	三輪, 勇四郎
Citation	札幌博物学会会報, 10(1), 63-78
Issue Date	1928-06-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/63156
Type	journal article
File Information	Vol.10No.1_004.pdf



本邦產地膽科 (MELOIDÆ) の研究

三輪 勇 四 郎

A STUDY ON THE SPECIES OF MELOIDÆ IN THE JAPANESE EMPIRE

By

Y. MIWA

本篇を以て本邦產地膽科の研究第一報とす、本篇は本邦に産する地膽科の種類に付き其の研究史現在迄に知られたる種の数及分布状態に付き研究せる者也。使用せる材料は北海道帝國大學農學部昆蟲學教室所藏の標本並びに先般當局の許可を得て特に閱覽研究を爲せる臺灣總督府中央研究所藏所の標本に依る事多しと雖、亦筆者自らが採集に於て得たるもの少なからず。本邦產地膽科の種の研究に付きては從來 V. de MOTSCHULSKY, S.-A. de MARSEUL, HAAG-RUTENBERG, G. LEWIS, H. de KIESENWETTER, H. J. KOLBE, H. von HEYDEN, H. von SCHÖNFELDT, M. PIC, F. BORCHMANN, G. SUMAKOV, 松村松年博士、素木得一博士、岡本半次郎博士等に依りて爲されたり。然れども以上はいづれも斷片的記述に止まれり。筆者は本篇に於て本邦産の種類を總括し此處に枚舉し説明せんと欲す、以上に挙げし諸先進學者の文獻に依り又 SCHENKLING の目録 (BORCHMANN 擔當) に従ひ余は本邦産廿七種一變種を決定せり、猶予の同定せる一未記録種及一新變種を加へ總數廿八種二變種を算するに至れり、標本を有せざる二三の種類は其まゝ記載を轉記し置きたり。

本篇を草するに當り常に御懇篤なる御指導を賜はりし松村先生に謹んで深謝の意を捧ぐ、なほ閱覽研究の便を御取計り下されし臺灣中央研究所應用動物科主任素木先生にも同様謝意を表す。

研 究 史

西曆 1857 年 V. de MOTSCHULSKY 氏は Etudes Entomologique 中に "In-

sectes du Japon”なる表題にて日本産昆蟲を記載し内地膽科につきては一種 *Meloe coarctatus* を記せり。

1873 年 S.-A. de MARSEUL 氏は Annals de la Entomologique du France に “Coléoptères du Japon recueillis par M. GEORGE LEWIS” と題し日本産甲蟲を記載せり其の内地膽科に屬する二新種五未記録種を含む、猶同氏は同題下にて1876年出版の該雑誌中に *Meloe* 屬に含まるる二新種一既知種を記述せり。

1879 年 G. LEWIS 氏は同氏著 “Catalogue of Coleoptera from Japanese Archipelago” の内に十三種と一變種を列挙せり、この變種に付きては何等の記録もなし。BORCHMANN 氏は之れを認めず、其の Catalogue 中に採用せざりき、筆者は本篇に於て之れを省略せり。同年氏は “On certain new Species of Coleoptera from Japan” なる論文を Annals and Magazine of Natural History 中に公表せられたり、其の中に一種 *Epicauta taishoensis* に關する記載を含めり。又同年 H. de KIESENWETTER 氏は Deutsche Entomologische Zeitschrift 中に “Coleoptera Japonae” なる表題の論文を掲載し、中に一種 *Cantharius Reini* 有り。同じく同雑誌中に L. von HEYDEN 氏は “Die Coleopterogische Ausbeute des Prof. Dr. REIN in Japan 1874-1875” と題し多數の甲蟲に付き記述せるの中に一種 *Meloe coarctatus* に付き論及せるを見たり。

1880 年 HAAG-RUTENBERG 氏は Deutsche Entomologische Zeitschrift Vol. 24 中に “Beiträge zur Kenntnis der Canthariden” と題し現今地膽科に屬する數種を枚舉し其の内に一種臺灣産の *Epicauta waterhousei* を記載せり、又同論文の中に後臺灣より採集せられたる一種 *E. hirticornis* の記載をも含めり。

1886年 H. J. KOLBE 氏は Archiv für Naturgeschichte 第五拾貳卷中に “Beiträge zur Kenntnis der Coleopteren-Fauna Koreas” と題して朝鮮に於て採集せる甲蟲に付きて論じ地膽科につきては四未記録種を挙げたり。

1887 年 L. von HEYDEN 氏は Horae Societatis Entomological Rossicae 第廿八卷中に “Verzeichniss der von Herrn OTTO HERZ auf der chinesischen Halbinsel Korea gesammelten Coleopteren” なる題下にて朝鮮産甲蟲を論じ内地膽科所屬の五種を舉ぐ。同年 H. von SCHÖNFELDT 氏は同氏著 “Catalog der Coleopteren von Japan” 中に地膽科十三種及一變種を掲げたり、此の變種は前述せる LEWIS 氏の目録より引用せるもの也。

1906 年松村博士は其の著「日本千蟲圖解」第四卷中に地膽科に屬する五種に付き記述せられたり。

素木得一博士は 1908 年出版の臺灣農事試験場特別報告第一號中に一種

Epicauta Gorhami につき又 1910 年出版同特別報告第五號中に一種 *Mylabris cichorii* に付き其々記述せられたり、而して 1911 年出版の同報告第八號には前記の *E. Gorhami* は *E. Gorhami* var. *formosana* と改正されたるも後同博士は之れは *E. tibialis* var. *formosana* の誤りなる事を指定せられたり、余は之れを *E. waterhousei* なりと認む。

1910 年 MAURICE PIC 氏は Bulltin de la Société Entomologique de France 中に “Hétéromères nouveaux du groupe de Zonitini” なる表題にて論文を公表せられたり、その内に京都より採集せられたる一種 *Zonitis japonica* を含む、予は本種を *Zonitoschema pallida* F. の Synonym と認めたり。

1911 年松村博士は東北帝國大學農科大學紀要第四卷第一號中に “Erster Beitrag zur Insekten-Fauna von Sachalin” なる論文を發表せられたり、その中に一種 *Meloe lobata* が南樺太に産する事を報せられたり、猶 1927 年一月出版の動物學雜誌中に掲載されたる 横山、鹿野兩氏共著「南樺太産甲蟲類目錄」中にも地膽科に付きては前記 *Meloe lobata* 一種挙げられてあり。

1912 年 F. BORCHMANN 氏は Supplementa Entomologica No. 1 中に “H. SAUTER's Formosa-Ausbeute” と題して臺灣産の種類四を記述せり。同年 C. WELLEMANN 氏は Entomological News, Vol. 23 中に “New species of Lyttidae, with notes on Described Species” なる論文を公表せり、中に臺灣産の一種 *Epicauta formosensis* を含む。

1913 年 G. SUMAKOV 氏は Revue Russe d'Entomologique, Vol. 13 中に “Deux nouvelles espèces du Genre Mylabris F.” なる題下にて函館より採集せられたる一新種 *Mylabris japonica* に付き記述せり、後 BORCHMANN 氏は其目錄中に之れを *M. thumbergi* の synonym とせり、余は子れを採用せず。

1924 年岡本半次郎博士は朝鮮總督府勸業模範場歐文報告第一卷に “The Insect Fauna of Quelpart Island” なる論文を掲載せられたり、その中に地膽科六種を含む。

種 の 記 載

- ・ 芫 菁 亞 科 (LYTTINÆ)
- 芫 菁 族 (MYLABRINI)
- 班 芫 菁 屬 (MYLABRIS)

1. *Mylabris cichorii* オビゲンセイ

Meloe cichorii LINNAEUS, Syst. Nat., ed. 10, p. 419 (1758).

Zonabris cichorii BORCHMANN, Suppl. Ent., No. 1, p. 12 (1912).

体黒色、同色の毛にて蔽はる。頭部稍圓形に近く細小點刻を密布す。前胸比較的長く側縁は丸味を帶ぶ、點刻を密布する事頭部に同じ中央に縦溝を走らす。翅鞘の基部に二個の黄色紋あり、一個は縫合線に近く普通橢圓形を呈す他の一個は側縁に添ひて印せらる。猶中央より稍上位に波狀の黄帶紋を有し、前者と之の間隔に等しき距離を置いて後方に同様の黄帶紋を有す。体長十一耗より卅二耗に至る大形種の斑紋は濃厚にして鮮か也。予は1925年並に26年の七月臺灣に於ける下記の個所に於て十數頭採集せり。臺北、ウライ、芝山巖、埔里社、バイバラ、霧社、新化、恒春、人倫、内茅埔、本埔。

分 布—支那、印度、臺灣。

2. *Mylabris japonica* ヤマトゲンセイ

Mylabris japonica SUMAKOV. Rev. Russe, d'Ent., XIII, p. 474, f. 1 (1913).

BORCHMANN 氏は其の目録中に本種を *M. thumbergi* BILLB. (印度原産) と同種也とせり。余は文獻により其翅鞘の斑紋の異なる事及大いさの相異等を見出せり。本種は前述の *cichorii* と同一 series に入る可き者にして *thumbergi* も亦 *cichorii* の變種に非ずやと思惟す、元來之等の種類はいづれも亞熱帶より熱帶に亘りて分布せる者也。SUMAKOV 氏の記載に依れば本種は函館にて ALBRECHT 氏により採集されしと云ふ、果して北海道産なるや否や甚だ疑問也。

分 布—北海道。

3. *Mylabris speciosa* テフセンゲンセイ

Mylabris speciosa PALLAS, Icon. Ins., p. 84, t. E, f. 9 (1782).

Zonabris speciosa HEYDEN, Hor. Soc. Ent. Russ., p. 260 (1887).

体黒色、暗青色に輝く毛にて蔽はる、翅鞘は淡赤色、黒色の斑紋を裝ふ、本種は HEYDEN 氏に依り朝鮮より報せられたり。本種は朝鮮に普通なる *M. calida* PAL. に酷似し記載のみにては其區別判然たらず。

分 布—西比利亞、朝鮮。

4. *Mylabris 5-maculata* トホシツチハンメウ

Mylabris 5-maculata OKAMOTO, Bull. Agric. Expt. Sta. Govt. Gen. Chosen, Vol. 1, No. 2, p. 184, Pl. VII, fig. 2, Pl. X, fig. 9 (1924).

体黒色、光澤あり、長き黒色の毛にて蔽はる、翅鞘は黄褐にして黒色の圓形内至橢圓形の斑紋各五個を有す。本種は岡本半次郎博士により濟州島より報導せられたり。

分 布—朝鮮。

5. *Mylabris calida* マダラツチハンメウ

Meloe calida PALLS, Icon. Ins. praes. Russ. Sibir., p. 85, t. E, f. 11 (1781).

Mylabris calida KOLBE, Arch. Naturg., p. 214 (1886).

前種に酷似す、只翅鞘の斑紋を異にす。本種は舊北州に擴く分布せる種類にして、余は歐洲産の五種と朝鮮産の九種に付き之れを検せるに翅鞘の斑紋の形狀並びに數は多様にして普通六乃至七個の斑紋點在せるが或者は融合して個々の形は大きく而て數を減じ三乃至四個に至るものあり。之れを要するに翅鞘の斑紋は非常に變異性に富む者にして余は上記の *5-maculata* (標本を検せず) は本種の一異狀形に非ずやと信ず。北大昆蟲學教室には朝鮮の京城、水原、仁川、平倉洞、滿州の金州、支那四川省及ベルリン、ブタベスト、シチリヤ等の標本を藏す。

分 布—歐洲、コーカサス、土耳其、シリヤ、西比利亞、アルジェリヤ、エヂプト、滿洲、支那、朝鮮。

長 菁 芫 族 (LYTTINI)

黒 芫 菁 屬 (EPICAUTA)

6. *Epicauta formosensis* タイワンクロマメハンメウ

Epicauta formosensis WELLEMANN, Ent. News, XXIII, p. 31 (1912).

体黒色、頭部は赤色、額片は暗赤色、黒色の端毛を密布す、但前背板の縁、翅鞘の周縁及先端、及腹節の外縁、中胸片、前胸側片の角縁部は白色の短毛にて蔽はる、体長は廿五耗乃至卅五耗あり。臺灣に擴く分布し、余は本埔、イバホ、タマホ、タムビヤ、臺北、ウライ、埔里社、クラル、恒春等に於多數捕獲せり、又基隆、章化、濁水溪にて採集せる標本を有す。

分 布—臺灣。

7. *Epicauta waterhousei* タイワンセスチマメハンメウ

Lytta waterhousei HAAG-RUTENBERG, Deutsche Ent. Zeitschr., XXIV, p.

79-81 (1880).

体長く、黒色、光澤無し、頭部は赤色にして輝けり、体一面黒色鱗状毛を以て蔽はる、但胸部の側面と基部翅鞘の周縁、小循板及腹面の毛は灰白色、又各翅鞘の中心に縦に走る灰白色毛の線を有す、各腹節の中心は黒し、体長は十六耗乃至廿五耗、本邦にては臺灣に産す、余は下記の個所に於て數頭採集せり。芝山巖、漁池、埔里社、新高、臺南、關仔嶺、ウライ。

分 布—臺灣、東印度。

8. *Epicauta gorhami* マメハンメウ

Epicauta gorhami MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr., (5) III, p. 227 (1873).

Epicauta gorhami MATSUMURA, Thousand Ins. Japan, Vol. I, No. 4, p. 20, Pl. LVII, Fig. 7 (1906).

体黒色、黒色鱗状毛にて密に蔽はる、但前胸の中央に灰黄色の一縦線を具へ、尙後縁にも同様の毛を装ふ、翅鞘の周縁及中央の一縦條は灰黄色也。頭部は赤色、粗大の點刻を具ふ、体長十二耗内外、本邦にありて大豆を喰害す。余は三重及岐阜縣に於本種を採集せり。北大昆蟲學教室には新潟、長崎、熊本等の採集品あり。

分 布—本州、九州。

9. *Epicauta taishoensis* クロマメハンメウ

Epicauta taishoensis LEWIS, Ann. Mag. Nat. Hist., (5) IV, p. 464 (1879).

Epicauta taishoensis MATSUMURA, Thousand Ins. Japan, Vol. I, No. 4, p. 17, Pl. LVII, f. 1 (1906).

体黒色にして少しく光澤あり、灰白色の毛にて蔽はる、頭部は寧ろ黒色、但眼の後部は幅廣き赤色にて縁付けらる。此の班紋は次第に細まり後頭の中心にて止まる、前額の中心、兩眼の間にも赤色紋を有す、又觸角の基節下側の中心にも同様赤色班點を有す、本種は前述の *gorhami* に酷似すれど前胸及翅鞘の黒色なる事、眼の後部に黒色部の存する事等によりて異なる、LEWIS氏は之れを對馬より報せり、又松村博士は本種を越後の新發田に於て採集せられたり。本種は亦朝鮮に産する *E. chinensis* にも似たり。

分 布—本州、九州。

10. *Epicauta reini* ラインツチハンメウ

Cantharis reini KIESENWETTER, Deutsche Ent. Zeitschr., XXIII, p. 307 (1879).

体は黒色、灰白色の毛を有す、頭部は黒又は淡黄褐色にして光輝あり、觸角は絲狀にして短かし、暗黄褐色を呈す、前胸の前部は丸味を帶び、側縁は略眞直に走り、基部に於て纖斷されたるが如し、中心の基部に縦溝を具ふ、前方に微細なる不等の點刻を有し、而て一面灰白色の鱗狀毛を裝ふ、翅鞘は黒色、光輝なし、粗大の點刻を裝ふ、周縁に灰白色の毛を有し、隆起翅脈は殆退化す。基節、腿節及跗節の基部は黄褐色、北大昆蟲學教室には米澤及新發田に於て採集せられたる標本あり、KIESENWETTER 氏の記載に依れば本種は Dr. REIN 氏に依り本邦(産地不詳)より採集せられしものなりと。

分 布 一 本 州。

11. *Epicauta chinensis* テフセンクロマメハンメウ

Epicauta chinensis MOTSCHULSKY, Etud. Ent., II, p. 48 (1853).

Lytta chinensis KOLBE, Arch. Naturgesch., p. 214 (1886).

Epicauta chinensis HEYDEN, Hor. Soc. Ent. Russ., p. 261 (1887).

体黒色、頭の後部、側部及額面は赤色、翅鞘の外縁、觸角の基節、小循板、肢の裏面にはいづれも灰白色の端毛を具ふ、雄の觸角は扇狀也、本種は朝鮮に擴く分布し大豆を食害す。北大昆蟲學教室には下記の個所にて採集されたる標本を藏す。水原、仁川、京城、南浦。

分 布 一 支 那、朝 鮮。

12. *Epicauta megaloccephala* テフセンマメハンメウ

Lytta megaloccephala GEBLER, Mém. Mosc., V, p. 318 (1817).

Epicauta megaloccephala OKAMOTO, Bull. Agric. Expt. Sta. Govt. Gen. Chosen, Vol. I, No. 2, p. 185, Pl. VII, f. 12 (1924).

本種は *E. erythrocephala* PALL. (歐洲原産)に酷似す。体黒色、頭の後部、側部及兩眼の中央部は赤色にして光輝あり、觸角黒色、第二節最小、前胸の中央に縦溝を具へ、一面灰白色毛を具ふ、翅鞘の先端、周縁は灰白色毛を有し、各々中央に走る同色毛の縦線を有す、本種は岡本半次郎博士に依り濟州島より報導せられたり。

分 布 一 西 比 利 亞、滿 洲、朝 鮮。

13. *Epicauta hirticornis* ムクゲマメハンメウ

Epicauta hirticornis HAAG-RUTENBERG, Deutsche Ent. Zeitschr., XXIV, p. 26 (1880).

Epicauta hirticornis BORCHMANN, Suppl. Ent., No. 1, p. 12 (1912).

体黒色、光澤を缺く、頭部は赤色、翅鞘の外縁及先端は白色鱗状毛にて縁付けらる、腹面には灰白色の鱗状毛を具ふ、但各腹節の中央には之れを缺く、雄の觸角は一樣に黒色の毛を以て蔽はる、前肢の腿節及脛節も亦黒色の毛を有す、体長約拾五耗あり。本種は SAUTER 氏により臺灣拘打に於て採集せられらりと報ず。

分 布—アッサム、臺灣。

青 芫 菁 屬 (LYTTA)

14. *Lytta antennalis* オホキバネツチハンメウ

Cantharis antennalis MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr., (5) III, p. 230 (1873).

体金綠色に輝く、腹面は光澤あり、背面は黄色の美毛にて蔽はる、翅鞘は淡黄色、但周縁は金綠色にて縁付けらる、頭部は三角形、中心に深き溝を走らす、後角は圓狀凸起を呈す、兩眼の間に赤色の班紋あり、上唇は短く屈曲す、胸部は圓錐形を呈し、背上に一個の小瘤を裝ふ、小楯板は鋭三角形、翅鞘は頭及前胸の和よりも約二倍半長し、肢細長、体長約廿九耗あり。MARSEUL 氏の記載に依れば本種は LEWIS 氏に依り長崎より採集せられたり。

分 布—九州。

15. *Lytta suturella* キバネツチハンメウ

Cantharis suturella MOTSCHULSKY, Schrenk's Reisen Amurl., p. 144, Pl. IX, f. 21 (1860).

Cantharis suturella MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr. (5) III, p. 221 (1873).

Lytta suturella HEYDEN, Hor. Soc. Ent. Russ., 260 (1887).

青綠色に輝く、腹面は滑か、脊上に少しく毛を有す、額の中央には一小赤色班紋あり、翅鞘は淡黄、但其の周縁は青綠色で縁付けらる、頭部は三角形を呈し、後角は圓味を帶ぶ、中心に微かに印せられたる縦溝を裝ふ、上唇心臟形、胸部は幅廣く短かし、兩側に於て強く三日月形に刳らる、中心に微かな縦溝を印す、翅鞘は頭及胸部の長さの約二倍、漸く見る事を得る小さき

點刻に依つて二つの翅脈を表はす、肢細長、体長廿一耗、朝鮮仁川より採集せられたる一頭を藏す、又 MOTSCHULSKY 氏は本種を日本の西北 Awashima (所在不詳)より Dr. ADAMS に依り採集されしと云ふ、原産地はアムール地方也。

分 布—日本、朝鮮、ダウリヤ、アムール。

16. *Lytta caraganae* ミドリツチハンメウ

Meloe caraganae PALLAS, Icon. Ins. Ross. Sib., p. 97, t. E, f. 28 (1781).

Cantharis caraganae MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr., p. 221 (1873).

Lytta caraganae HEYDEN, Hor. Soc. Ent. Russ., p. 260 (1887).

Lytta chinensis OKAMOTO, Bull. Agric. Expt. Sta. Govt. Chosen, p. 185, Pl. VII, f. 4 (1924).

体金綠色に輝き、滑か也、殆ど毛を有せず、頭部略三角形を呈し中央に微かな縦溝を走らす、前額兩眼の間に縦溝の延線上に赤褐色の小班紋を印す、胸部は幅廣く中心に微かな縦溝を有す、翅鞘は粗雜なる點刻に依り稍光澤を缺けども金色を帯びて輝けり、觸角は暗青色、第二節は最小、第三節は最長(基節を除く)にして他のいづれよりも細し、朝鮮に普通なる種類にして京城、釜山、仁川、大邱、水原等に於て多數捕獲せられたり、又岡本半次郎博士は之れを濟州島より報じ、LEWIS 氏は本種を長崎より採集せる記録あり。

分 布—九州、朝鮮、支那、アルタイ、西比利亞。

短翅地膽族 (MELOINI)

短翅地膽屬 (MELOE)

17. *Meloe auriculatus* コツチハンメウ

Meloe auriculatus MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr. (5) VI, p. 480 (1873).

体細長く黑色にして青藍色に輝く、頭部は三角形を呈し後部は稍圓味を帶ぶ、細小の點刻を散布す、額の中央に非常に微かな凸陷を有す、上唇短かく幅廣く三日月形に刳らる、雄の觸角は奇形を呈す、胸部は稍長方形に近く頭より幅狹し、前方は寧幅廣く、中央に於稍狹まる、基部に於て三日月形に刳られ縁付けらる、表面滑かにして小點刻を散布す、翅鞘は胸部の約二倍の長さあり、表面は粗雜な點刻により蟲蝕形の縮刻を表はす、肢細く、跗節は長し、爪の間に二叉の剛毛を有す、体長十三耗内外、本種は次に述ぶる *M.*

coarctatus MOTSCH. に酷似すれど次の諸點に依りて區別す、觸角の第一節は非常に短く、雄に於ては幅廣く縦斷されたるが如し、翅鞘の縮刻及頭胸部の點刻は非常に強く明か也、本種は日本に通俗の類類にして MARSEUL 氏は之を兵庫、大阪より報ず、尙北大昆蟲學教室には次の個所に於て採集されたる標本を藏す、即北海道に於ては札幌及定山溪、本州では東京、秩父、越後の新發田、中禪寺、盛岡、青森、朝鮮の京城及水原等也。

分 布—北海道、本州、朝鮮。

18. *Meloe coarctatus* ヒメツチハンメウ

Meloe coarctatus MOTSCHULSKY, Etud. Ent., VI, p. 35 (1857).

Meloe coarctatus MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr., (5) VI, p. 481 (1876).

Meloe coarctatus MATSUMURA, Thousand Ins. Japan, Vol. I, No. 4, p. 19, Pl. LVII, f. 5 (1906).

外見長方形を呈し、青藍色を帯びて輝けり、翅鞘には粗雜の點刻を裝ひ蟲蝕形の縮刻を表はす、胸部は狭く長く、前方は稍廣まり、中央部は兩側に於て三日月形に刳らる、翅鞘は後方に於て開く、先端は稍鋭し、肢細長く、爪の間に二叉の剛毛を有す、体長約十八耗、前述の種に酷似す、但あまり多からず、MARSEUL 氏に據れば本種は LEWIS 氏により長崎より採集されしと報ず、この外北海道にありては札幌及定山溪、本州に於ては中禪寺に於て採集せられたる標本を有す。

分 布—北海道、本州、九州。

19. *Meloe corvinus* マルクビツチハンメウ

Meloe corvinus MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr., (5) VI, p. 482 (1876).

Meloe corvinus MATSUMURA, Thousand Ins. Japan, Vol. I, No. 4, p. 18, Pl. LVII, f. 3 (1906).

Meloe corvinus OKAMOTO, Bull. Agric. Expt. Sta. Govt. Gen. Chosen, Vol. I, No. 2, p. 184 (1924).

体は黒青藍色にして光澤あり、頭部三角形を呈し點刻は強く印せらる、額上兩眼の間に縦溝を有す、上唇は強く三日月形に刳らる、前胸は幅廣く稍四角形を呈し、二個の凹陷を印す、中央に微かなる縦溝を走らす、觸角は短かく第四節より第八節に至る間は鋸齒狀を呈し、各節幅廣し、翅鞘は淺き粗雜の點刻に依り蟲蝕形の縮刻を表はす、前胸の約四倍の長さあり、体長約十

八耗、之れは本邦に普通なる種類にして幼虫は花蜂の巢に寄生す、MARSEUL氏は本種が長崎及兵庫より採集されたりと報ず、本種は亦樺太豊原に於1924年五月犬飼哲男博士により採集されたり、樺太より採集されたるは之れを以て最初の報導とす、其他北海道に於ては札幌、定山溪、本州にありては高雄、郡馬縣、中禪寺、四國にては伊豫の佐々山に産す、又朝鮮濟州島より岡本半次郎博士に據り報せられたり、近藤氏は南滿州金州東門外に於1927年四月一頭を捕獲せり、本種は南滿州よりも亦未記録のもの也。

分 布—樺太、北海道、本州、四國、九州、朝鮮、滿洲。

20. *Meloe violaceus* オホツチハンメウ

Meloe violaceus MARSHAM, Ent. Brit., I, p. 482 (1802).

Meloe violaceus MATSUMURA, Thousand Ins. Japan, Vol. I, No. 4, p. 21, Pl. 57, f. 9 (1906).

Meloe violaceus OKAMOTO, Bull. Agric. Expt. Sta. Gov. Gen. Chosen, Vol. I, No. 2, p. 184 (1924).

本種は前述の *auriculata* に比し体強大、色黒味勝ちなる事、翅鞘の縮刻一層深く、又 *corvinus* に比し前胸細長く且凹陷を印せず、体長く、色黒味勝ちなる事也、本邦北部に産す、札幌地方にては五、六月の候よく發見さる、本州にては青森、北海道にては札幌にての採集品あり。本種は歐洲原産にして岡本博士は又朝鮮濟州島より報告せられたり。

分 布—北海道、本州、朝鮮、北亞細亞、歐洲。

21. *Meloe lobata* カラフトツチハンメウ

Meloe lobata GEBLER, Nouv. Mém. Mosc., II, p. 57 (1832).

Meloe lobata KOLBE, Arch. Naturg., LII, p. 212 (1886).

Meloe lobata MATSUMURA, Journ. Agric. Coll. Sapporo, IV, p. 128 (1911).

体暗青藍色に輝く、前述の種 *violaceus* に似たれども色淡く、より光澤あり、點刻並びに縮刻深からず、肢も亦細く且前胸の形を異にす、本種は樺太 *Galkinowraskae* にて採集せられし事を松村博士に依り報せられたり、余は1927年の七月樺太小沼に於て之れを採集せり、朝鮮よりは KOLBE 氏に依り報せられ、又岡本博士は之れを濟州島より報告せられたり、猶本種は北海道にても發見され札幌にて採集されたる標本一頭あり。

分 布—樺太、北海道、朝鮮、東西比利亞。

22. *Meloe proscarabaeus* テフセンツチハンメウ

Meloe proscarabaeus LINNAEUS, Syst. Nat., ed. 10, p. 419 (1758).

Meloe proscarabaeus HEYDEN, Hor. Soc. Ent. Russ., p. 260 (1887).

本種は歐洲に普通なる種類にして、HEYDEN 氏により朝鮮より三頭採集せる事を報導せられたり、産地は詳かならず。

分 布—歐洲、コーカサス、土耳其、朝鮮。

櫛地膽亞科 (NEMOGNATHINÆ)

長角地膽族 (SITARINI)

毛地膽屬 (APALUS)

23. *Apalus bimaculatus* フタボシツチハンメウ

Meloe bimaculatus LINNAEUS, Fauna Suec. ed. 2, p. 228 (1767).

Apalus bimaculatus MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr., (5) III, p. 222 (1873).

体黒色、觸角長く、胸部は圓形、翅鞘は橙黄色にして後部に黒色圓形の班紋を装ふ、雌は腹面の後部に黄味を帶ぶ、本種は LEWIS 氏により長崎より採集せられたる記録あり

分 布—九州、南歐、小亞細亞、土耳其。

細角地膽族 (NEMOGNATINI)

紋地膽屬 (MEGATRACHELUS)

24. *Megatracherus politus* ヨツボシツチハンメウ

Zonitis polita GEBLER, Nouv. Mém. Mosc., II, p. 58 (1832).

Zonitis polita MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr., (5) III, p. 222 (1873).

Zonitis polita KOLBE, Arch. Naturg., LII, p. 214 (1886).

体黒色、翅鞘黄褐色にして各二個の黒色紋を装ふ、胸部は前方狭く、後方に擴がり、點刻を密布す、小楯板は圓形にして中央陷凹し、一面點刻を密布す、翅鞘は胸部の約四倍の長さを有し、略圓筒形を呈す、肢細く、腿節は扁平なり、爪は二叉に分岐す、北大昆蟲研究室には朝鮮京城に於て採集せられたる三頭を藏す、翅鞘の班紋は往々之れを缺除せる事あり、之れ次に示す本種の變種也。

分 布—朝鮮、北蒙古、東西比利亞。

25. *Megatrachelus politus* var. *dilutipennis*

チャバネツチハンメウ

Schötteria polita ab. *dilutipennis* REITTER, Fauna Germ. III, p. 395 (1911).

朝鮮京城に於て採集せられたる一頭を有す。

分 布—朝鮮、東西比利亞、北蒙古。

黄 地 膽 屬 (ZONITOSCHEMA)

26. *Zonitoschema cothurnata* ツマゲロキツチハンメウ

Zonitis cothurnata MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr., (5) III, p. 228 (1873).

外見は次に述べる *Z. pallida* F. に酷似すれど下の諸點に依り之れを分つ、翅鞘の先端に黒色班紋あり、其の點刻は一層密にして細小なり、前胸は梨形を呈し狭く、頭は基部に於て一直線をなす、小楯板は大きく凹陷紋を印す、本種は LEWIS 氏により長崎より發表せられたり、本種は又 1926 年の四月臺灣バイバラ山中に於て齋藤良秀氏及菊地寛治氏に依り三頭採集せられたり。本種は臺灣より未記録のもの也。

分 布—九州、臺灣。

27. *Zonitoschema pallida* キイロツチハンメウ

Zonitis pallida FABRICIUS, Ent. Syst., IV, App., p. 447 (1794).

Zonitis pallida MARSEUL, Ann. Soc. Ent. Fr., (5) III, p. 222 (1873).

Zonitis geniculata FAIRMAIRE, Notes Leyd. Mus., IX, p. 195 (1887).

Zonitis japonica PIC, Bull. Soc. Ent. Fr., p. 90 (1910).

Zonitis geniculata BORCHMANN, Suppl. Ent., p. 12 (1912).

体は淡黄褐色、複眼は大にして黒色、觸角比較的長く黒色を呈す、但各節の先端は多少赤味を帶ぶ、翅鞘は黄褐班紋無し、肢は腿節、脛節の基部を除き黒色、本種は本州より臺灣に亘り廣く分布せり、LEWIS 氏は之れを長崎より報じ、PIC 氏は之れを京都より採集し *Z. japonica* として發表せり、又臺灣にて採集されしものは *Z. geniculata* と同定されしも余は之等がいづれも同種類なる事を認め此處に發表せり、北大標本室に藏せらるゝ數頭の標本に付き其の Label に依り産地及採集者を示せば次の如し、京都(鈴木元次郎氏採集)、日光(平山修二郎氏採集)、信州島内村(河野廣道氏採集)、臺灣バイバラ(菊地寛治氏採集)。

分 布—東印度、本州、九州、臺灣、セレベス。

28. *Zonitoschema pallida* var. *okinawensis*

オキナハキツチハンメウ

Z. pallida に酷似す、原種と異なる處は、觸角並びに肢部共全部黄褐色なる事也、沖縄本島より採集されたる一頭を藏す。

分 布—琉球。

細 翅 地 膽 族 (HORIINI)

細 地 膽 屬 (CISSITES)

29. *Cissites cephalotes* トビイロゲンセイ

Horia cephalotes OLIVIER, Ency. Méth., VII (Ins.), p. 102 (1792).

Horia maxillosa FABRICIUS, Syst. El., II, p. 86 (1801).

体赤褐色、觸角は黒色にして絲狀、其の長さ前胸の基部に達せず、大腮の先端は鋭く基部に一齒を裝ひ黒褐色を呈す、頭部大、前胸は短く背面は平滑也、翅鞘には規則正しき二乃至三の縦隆起線を有す、肢は黒色、但爪の基部は赤褐色也。本種は臺灣中央研究所所藏の標本にして臺灣よりは未記録の種類也。

分 布—臺灣、ジャバ、スマトラ。

30. *Cissites anguliceps* ヒメトビイロゲンセイ

Horia anguliceps FAIRMAIRE, C. R. Soc. Ent. Belg., p. CXI (1885).

Synhoria anguliceps GAHAN, Ann. Mag. Nat. Hist., (8) II, p. 204 (1908).

Horia anguliceps BORCHMANN, Suppl. Ent., No. 1, p. 12 (1912).

体長く、赤色にして光輝あり、肢、觸角、鬚及大腮は黒色、頭部幅廣く扁平也、淺き點刻を密布す、胸部の前縁角は圓味を帶び、側縁は後方に於て屈曲す、背面は細小の點刻にて密に蔽はる、中心の基部に凹陷紋を印し不規則なる班紋あり、翅鞘の中心より後方は細まり、後部は開く、各翅鞘に三の縦隆起線を裝ふ、体長約十四耗、本種は SAUTER 氏に依り臺灣 Fühôshô より採集せられたる事を BORCHMANN 氏は報導せり。

分 布—臺灣、ボルネオ、スマトラ。

RÉSUMÉ

Hitherto twenty-nine species and two varieties of *Meloidae* from Japan proper, Corea, Formosa and Sachalien have been reported by senior authors, as MARSEUL, LEWIS, KIESENWETTER, KOLBE, HEYDEN, SCHÖNFELDT, MATSUMURA, SUMAKOV, PIC, SHIRAKI, BORCHMANN and OKAMOTO, etc.

After the careful studies of the author, eight genera and twenty eight species, including unrecorded one species and two varieties, have been found as the *Meloid*-fauna of the Japanese Empire.

The present intention of me is two enumerate these species, showing their distributions, with the description of one new variety:

Zonitoschema pallida var. *okinawensis* (n. var.)

♀. Elongate, testaceous, somewhat shining, with griceous pubescence. Eyes large and black. Head rather short, strongly and densely punctured. Prothorax relatively long, rather rounded anteriorly, transverse at the base, very slightly impressed longitudinally on the disk, closely and strongly punctured. Elytra parallel, densely punctured on each dorsal part, but much feebler on the lateral sides. These characters nearly coincide with those of the typical *Z. pallida* F. except the antennae and legs which are wholly pale brownish yellow.

Length: 17 mm. Width: 5 mm.

Hab.—Loo-choo; Ishigakijima, VII-1925 (S. HIRAYAMA).

AN ENUMERATION OF *MELOID*-SPECIES,
SHOWING THEIR DISTRIBUTIONS.

Species	Localities						Other localities
	Saghalien	Hokkaido	Honshu	Shikoku	Kiushu	Corea	
1. <i>Mylabris cichorii</i> LINNAEUS							x
2. <i>M. japonica</i> SUMAKOV		x					
3. <i>M. speciosa</i> PALLAS						x	Siberia

Species	Localities							Other localities
	Saghalien	Hokkaido	Honshu	Shikoku	Kiushu	Corea	Loo-choo	
4. <i>Mylabris calida</i> PALLAS						x		South-Europe, Caucasus, Turkey, Syria, Siberia, Manchuria, Egypt
5. <i>M. 5-maculata</i> OKAMOTO						x		
6. <i>Epicauta formosensis</i> WELLEMANN							x	
7. <i>E. waterhousei</i> HAAG-RUTENBERG							x	East-India
8. <i>E. gorhami</i> MARSEUL			x		x			
9. <i>E. taishoensis</i> LEWIS			x		x			
10. <i>E. reini</i> KIESENWETTER			x					
11. <i>E. megalcephala</i> GEBLER						x		Siberia, Manchuria
12. <i>E. chinensis</i> MOTSCHULSKY						x		China
13. <i>E. hirticornis</i> HAAG-RUTENBERG							x	Assam
14. <i>Lytta antennalis</i> MARSEUL					x			
15. <i>L. suturella</i> MOTCHULSKY			x			x		Dauria, Amur
16. <i>L. caraganae</i> PALLAS					x	x		China, Altai, Siberia
17. <i>Meloe auriculatus</i> MARSEUL		x	x			x		
18. <i>M. coarctatus</i> MARSEUL		x	x		x			
19. <i>M. corvinus</i> MARSEUL	x	x	x	x		x		Manchuria
20. <i>M. lobata</i> GEBLER	x	x				x		East-Siberia
21. <i>M. violaceus</i> MARSEUL		x	x			x		Europe, North-Asia
22. <i>M. proscarabaeus</i> LINNAEUS						x		Europe, Caucasus, Turkey
23. <i>Apalus bimaculatus</i> LINNAEUS					x			South-Europe, Asia-Minor, Turkey
24. <i>Megatrachelus politus</i> GEBLER					x	x		Siberia, Mongolia
25. <i>M. politus</i> var. <i>dilutipennis</i> REITTER						x		East-Siberia, North-Mongoria
26. <i>Zonitoschema cothurnata</i> MARSEUL					x		x	
27. <i>Z. pallida</i> FABRICIUS			x		x		x	
28. <i>Z. pallida</i> var. <i>okinawensis</i> (n. var.)							x	
29. <i>Cissites anguliceps</i> FAIRMAIRE							x	Borneo, Sumatra
30. <i>C. cephalotes</i> OLIVIER							x	Borneo, Sumatra
	2	6	9	1	9	14	1	8